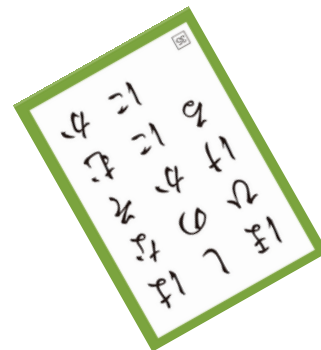
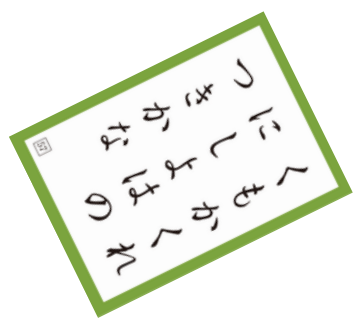
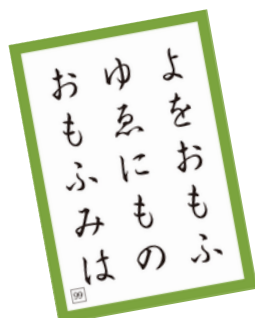


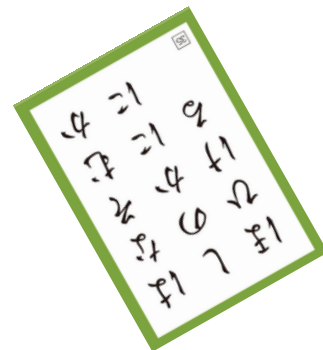
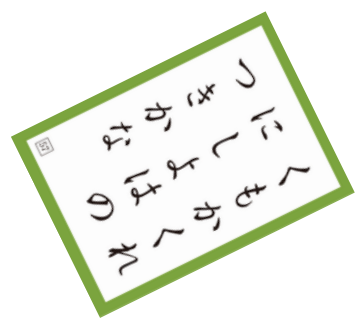


開物務

開成かるた会

同好会誌

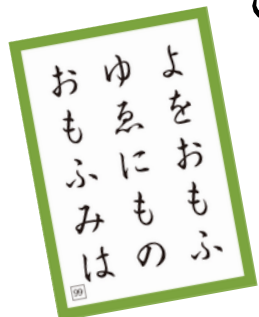


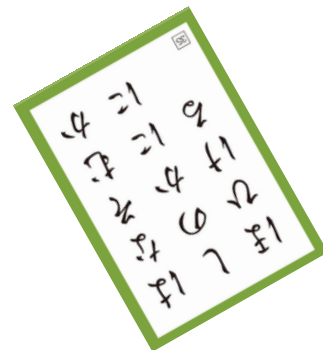
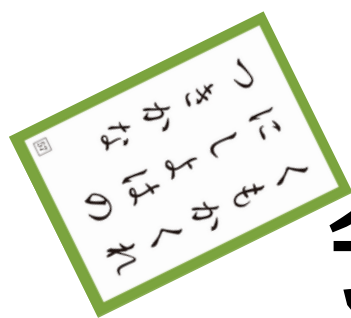


目次

- 2p 会長挨拶
- 3p 「ちはやふる」という作品を知っていますか？
- 4p 開成かるた会について
- 5p-8p 競技かるたとは？
- 9p 大会・昇級について
- 10p おまけ 部員の好きな札

な札





会長挨拶

本日は155th開成祭並びに開成かるた会にお越しいただき誠にありがとうございます。初めての参団出展が叶ったこと、そしてこの同好会誌を読んでくださっていることを部員一同大変嬉しく思います。

我々開成かるた会は昨年4月に発足し、それ以来熱心に活動に取り組んでまいりました。競技かるたの練習はもちろん、合同練習会の開催やTシャツ作りなど様々なことに挑戦し、仲間との友情を深めて日々の活動に臨んでおります。

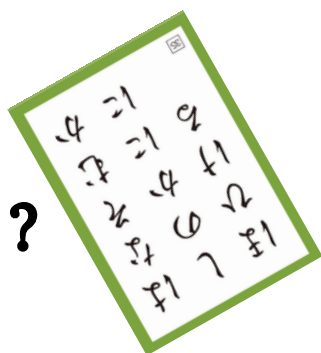
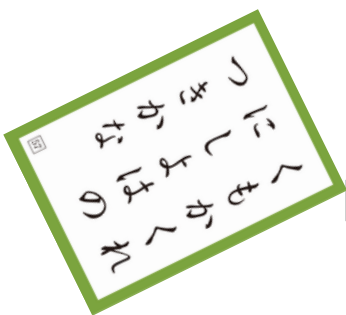
しかし、競技かるたというのは知名度の低い競技です。確かに名前を知っている方は大勢いますが、実際のルールを知っていたり正月にするようなかるたとの区別がついている、という方は驚くほど少ないのです。そんな競技だからこそ、勧誘が難しい、理解を得られにくい、という難しさと同時に、かけがえのない楽しみに出会えるのだと思っています。今読んでくださっているあなたが、少しでも競技かるたに興味を持っているならば、日々努力しているかるたー（karuter）のことを思い浮かべ、競技かるたを始めてみてはいかがでしょうか。

改めまして、本日はお越しいただき誠にありがとうございます。競技かるたの奥深さを感じていただけたのであれば幸いです。



開成かるた会会長 中学3年7組 坪井陸人





「ちはやふる」という作品を知っていますか？

「ちはやふる」とは、競技かるたに熱く取り組む高校生の青春を描いた大ヒット作品です。元々は末次由紀先生による漫画で、大人気となりアニメ・映画・小説とどんどん派生していきました。実際の高校やかるた会もいくつかモデルとなっており、競技かるたの知名度や競技人口が爆発的に上昇したのもこの作品による影響が大きいものとなっています。

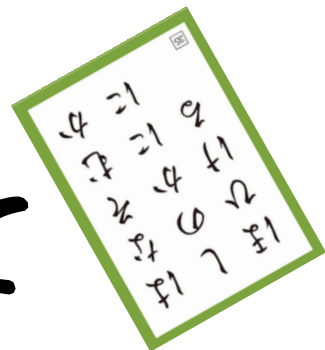
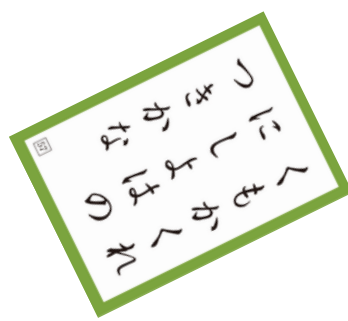
物語が描くのは瑞沢高校の新入生たちが競技かるたの練習に励むストーリーです。主人公・綾瀬千早はかるた部を作り、様々な人物に助けられ刺激を受けながら高校選手権を目指します。しかし高校選手権とは、かるたの聖地近江神宮で毎年全国大会が行われる、いわば競技かるたの甲子園とも言える大会。そんなハードルの高い大会を、しかも優勝を、彼らはかるた部を作る段階から目指すというのです。

そんなことが成し得られるというのでしょうか？しかし現実を見ると、この2026年、あの強豪校の立ち並ぶ激戦区東京都の予選会を制し高校選手権全国大会に進んだとある学校がありました。その学校はこれまで強豪とは言われておらず、そこから這い上がってついに全国大会初出場を果たしたのです。私たちはその勇姿に非常に感銘を受け、ちはやふるのような話が本当にあるものなのかと心打たれました。これからも私たちなりの努力で高校選手権を目指していきたいと思います。

皆さんも、よろしければ「ちはやふる」をお手に取ってみてください。きっと競技かるたの世界に引き込まれることでしょう。



会員七人に聞いてみた！アンケート



開成かるた会について

開成かるた会は昨年4月、現中3の私(坪井陸人)が立ち上げた同好会です。全日本かるた協会にもかるた会として登録され、合同練習会、文化祭と今も活動の輪を広げています。

私が競技かるたを始めたのは中1の秋でしたが、開成にかるた部はなく、地元のかるた会で練習をしていました。しかし、開成の生徒ともかるたをしたい、部活として取り組んでみたいと構想し、結果このような開成かるた会という形で活動することができています。また始めは5人弱で活動していたのが、今は中1中2を二人含むC級1人、D級1人、E級12人にまで広がり、大変嬉しく思っております。(2026年7月現在)。

なお、活動場所は中高予備教室と武道場です。他校をお誘いしての合同練習会も武道場で開催しています。

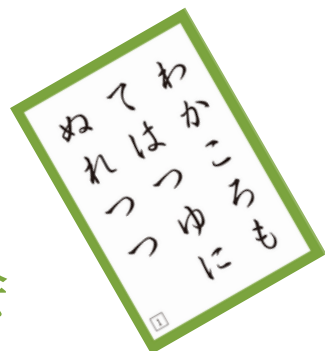
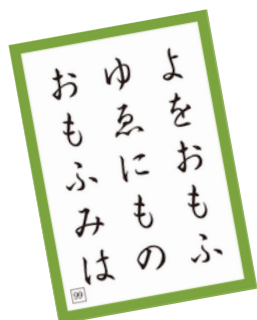
★★初代開成かるた会★★

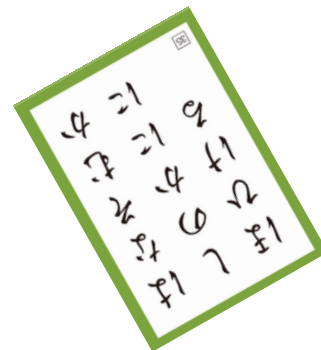
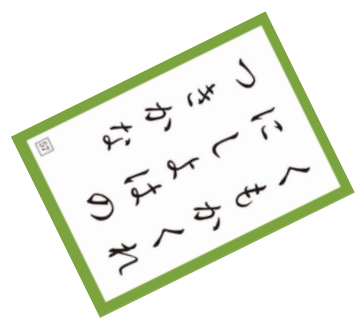
実は、開成かるた会は私が開成中学校に入った前年までは存在していたのです。23年開成卒の井手口比裕さんが同じような形で活動していましたが、卒業と同時に途絶えてしまいました。

現在、井手口さんを始めとして開成かるた会は多くのOBの方々と交流し、協力していただいています。東大、慶應、早稲田、京大など様々な大学の方々が活動に来てくださり、貴重な練習の機会となっています。

△試合で自分の成長が実感できた時(心)

△札を速く取ることができた時(心)





競技かるたとは？

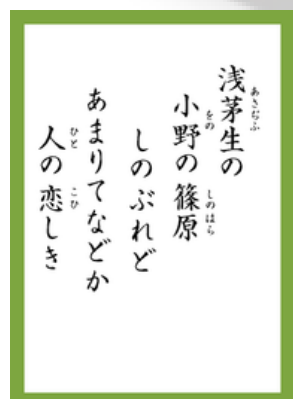
競技かるたのルールを知らない方も多いと思うので、ここでルールを説明していこうと思います。

競技かるたは、簡単にいうと、読まれた百人一首の札を相手より素早く取るゲームです。これだけではよくわからないと思うので詳しく説明していきます。

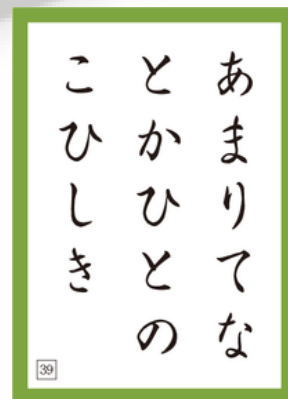
対戦の準備

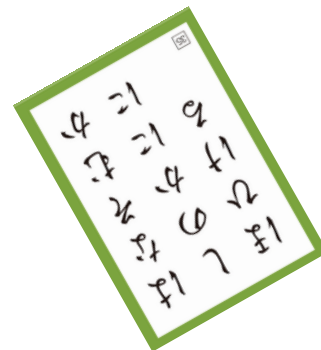
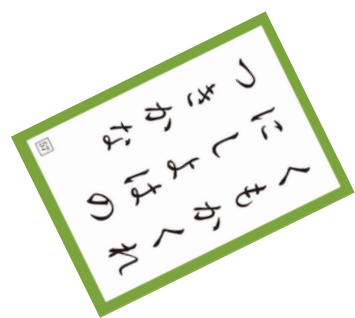
競技かるたは、基本は 1vs1 で行われます。競技かるたは江戸時代に日本でできた和の競技なので、必ず畳の上で行います。また、競技かるたは 1 試合に 1 時間～1 時間半かかり、他のいろいろな競技に比べてかなり長い時間がかかるため、長時間耳を研ぎ澄ませる集中力が鍵を握ることになります。

次は、対戦で使われる百人一首の札についてです。百人一首には読み札と取り札というものがあります。読み札とは百人一首のうちの一歌とその作者の絵が書いてある札で、これは読み手が札を読むためのものなので、競技者は基本使いません。対して取り札は一歌のうちの下の句（5・7・5・7・7 のうち最後の 7・7）のみが書いてあるもので、競技者はこれを使います。



←読み札
取り札→



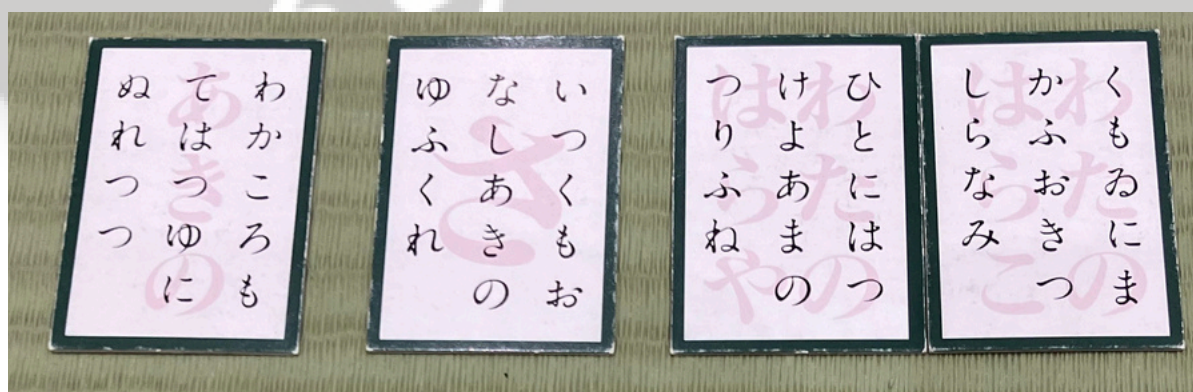


競技かるたとは？

決まり字について

かるたを面白くする要素に、決まり字というものがあります。決まり字という言葉は聞くことが初めてという人も多いと思います。決まり字とは競技かるたにおいて、「読み札がそこまで読まれれば、どの取り札か確定する」という先頭からの最短の文字数のことです。例えば「秋の田のかりほの庵の苫をあらみわが衣手は露にぬれつつ」という歌の決まり字は「あきの」になります。(以下の写真) 決まり字は1字で決まるものから6字まで詠まれないとわからないものもあり、この決まり字の部分がすべて詠まれたタイミングで取るのが最も良い取りということになります。

決まり字が短い札は、最短の時間で素早く取ることが最も重要で、逆に決まり字の長い札は、札を手で覆い相手に触らせにくくする「囲い」をして確実に取るなど、それぞれ別の技術が必要となってきます。



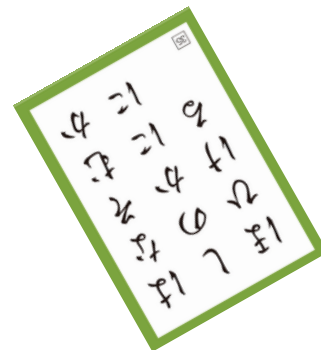
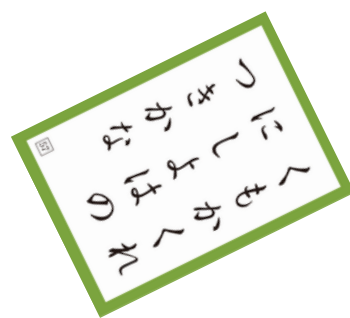
(写真)決まり字の書かれた札

1番左はあきの

2番目はさで一字決まり

右の2枚はわたのはらや、こで6字決まり

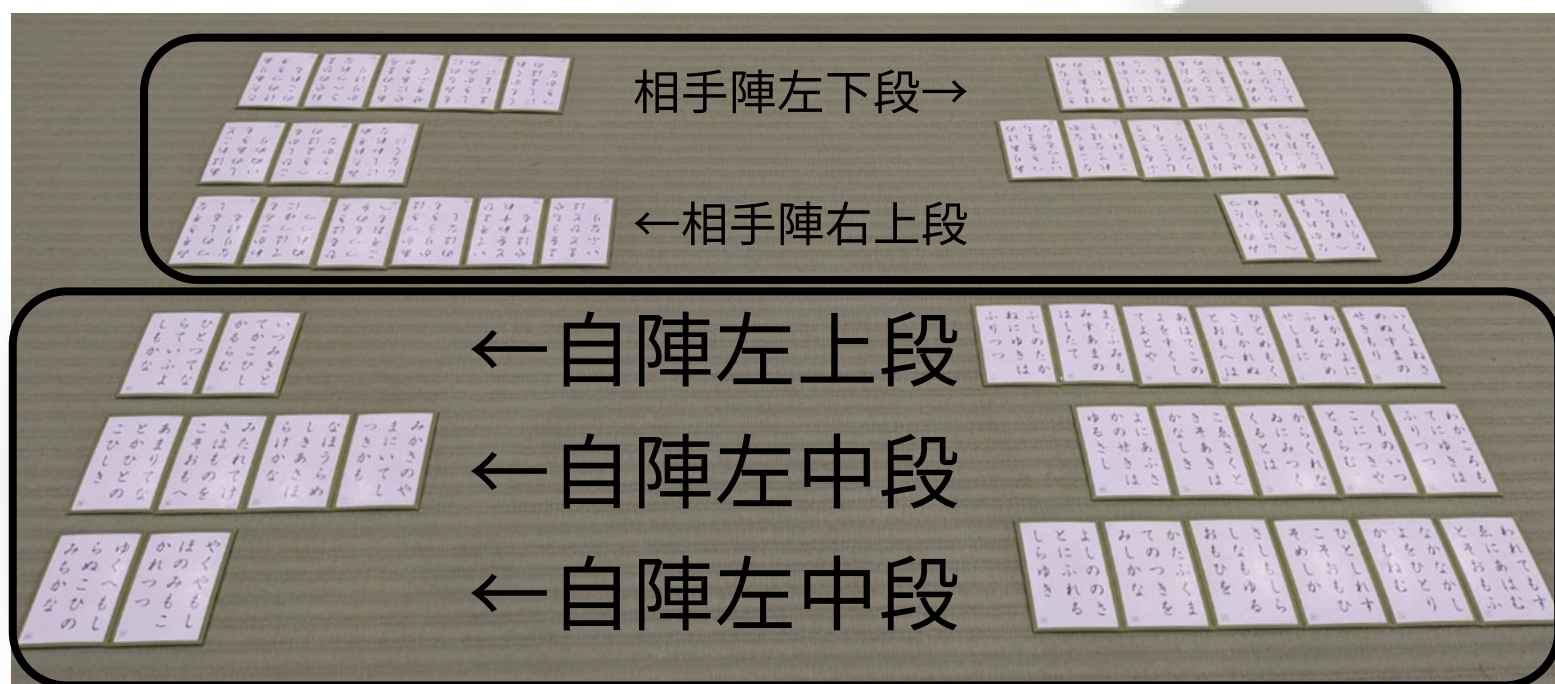




競技かるたとは？

次に試合配置についてです。下の写真をご覧ください。かるたは1試合で100枚全てを使うわけではなく、選ばれた50枚のみを使います。そこからさらに自分、相手にランダムに25枚に分け、図のようにそれぞれ自分自身の陣に上段・中断・下段の3段に分けて並べます。

△相手との札を巡っての論争に負けた時(人)



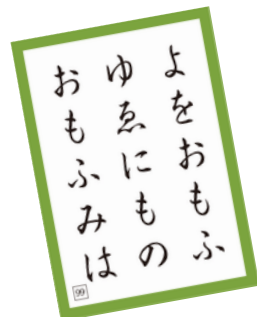
(写真)実戦の写真

自陣・相手陣ともに25枚になっている

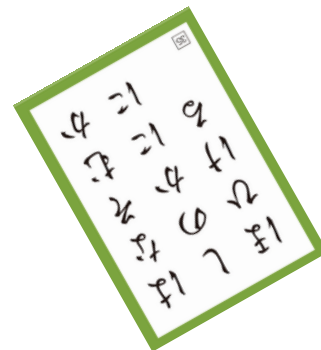
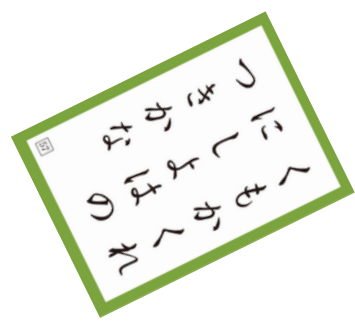
コラム:かるたの礼儀について

かるたには、日本のスポーツならではの特徴があります。その一つが礼儀で、対戦前と対戦後には必ず相手に向かって礼をしたりするのはもちろん、離席する、戻るときには「失礼します」「失礼しました」と言う、下の句が詠まれはじめると音を出さず、上の句と下の句の間は息も止めるなど、全員が快くプレーできるようさまざまなルール・マナーが存在しています。

日本の文化を隅々まで感じることもかるたの魅力といえるでしょう。



かるたで自分の成長を感じる瞬間は？



競技かるたとは？

試合経過

試合経過ですが、かるたは自分の陣の枚数を0にすると勝ちになります。読まれた自陣の札を取った場合はそのまま、相手陣を取ると枚数を減らすために自陣から1枚好きな札を相手に送ることができます。また、詠まれていない札を払ったりしてしまうとお手つきとなり、さらに1枚送られてしまうのでかなり痛く、注意が必要です。こうして試合が進んでいきますが、まれに、両者の実力が拮抗している場合は両者ラスト1枚ずつになることがあります。この状態は運命戦といい、両者自陣を取りに行くため、勝つ確率は半々の文字通り運命の運勝負となります。

まとめ

総じて、競技かるたはフィジカルよりも、札を払う精度や長時間集中する精神力、そして選手への札が重要な競技だということがお分かりいただけたでしょうか。

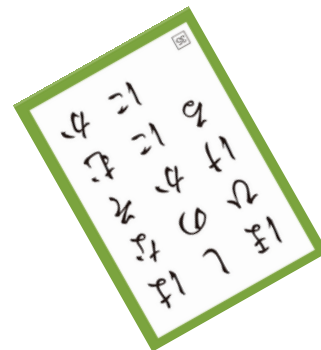
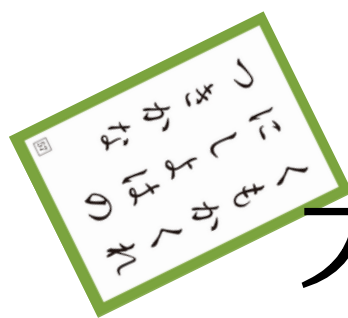
この文章を読んで、少しでも競技かるたの良さに気づいていただけたら幸いです。

コラム:かるたを強くなるために

この部誌を読んで、実際に競技かるたをやってみたくなかったが、何をすればいいのかわからない人もいるかもしれません。そのような方は、会長と同じようにまずは地域のかるた会に参加することをおすすめします。かるたにはここには書けなかった沢山の技術があり、それらを学ぶには対戦経験を積み、交流するのが最も手っ取り早いです。体験や見学のできるところも多いのでぜひ試してみてくださいはいかがでしょうか。



A.O.B.Oの方や強い部員と対戦してアドバイスをもらった時(心)



大会・昇級について

競技かるたにも級・段があります。最初は全員 E 級から始まります。そして D 級に上がると初段になります。その後 C 級は 2 段、B 級は 3 段、と級とともに段も上がっていきます。A 級になると 4 段になりますが、そこから級が上がることはなく段のみが上がっていきます。今のところ 10 段までありますが、10 段は全国でほんの数人しかいません。(三角ピラミッドの写真)

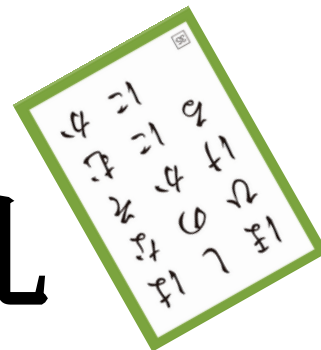
ここまで昇級について書いてきましたが何をすれば昇級なのでしょう。それは級によって基準が違いますが、端的に言うと大会で勝つことです。大会は全国各地のかるた会で開かれており、関東の大会だけでも 1 ヶ月に少なくとも 2、3 回は行われています。大会は基本 32 人ブロックで、トーナメント戦です。例えば E→D に昇級したい場合、大会でベスト 4 に入ることが昇級の基準となっています。

大会の中でも、タイトル戦であるクイーン戦や名人戦はかるたで最も注目される最高峰の大会で、参加者の反応速度は異次元レベルです。有名なだけあって YouTube などでも対戦動画が載っているので、一度見てみると超プロ同士の対戦を見ることができとても面白いです。

◎大会で一番印象的だった相手は？

A.そもそも強くなつたと感じる瞬間がない人





おまけ 部員の好きな札

おまけとして、部員の好きな札を紹介します。
それぞれ個性が出ていて面白いですね！

A.上段が一枚もなかった選手(熊本)

A.利き手を骨折して、左手でプレーしていた選手(坪井)

部員名	好きな札	好きな理由
坪井(部長)	おもいわび	小学生の頃から覚えていた数少ない札で、自陣でも無意識に反応できるから。
山下	あさぢふの	無意識に暗記ができて、転換もしやすいから。
豊福	ひさかたの	最初に部活でやった試合で江藤に反応がいいと褒められた札だから
折田	すみのえの	かるたを始めて最初に取れた札だったから
赤津	かくとだに	まっすぐな想いを様々な技巧を使って歌に込めているのがいいと思ったから
吉崎	ちはやふる	景色を描いたものの中でも、一番綺麗だと感じたから
江藤	かぜそよぐ	さらさらと秋を感じさせるような風が檜の葉を撫でて、夕暮れ時の暖かな、木漏れ日が小川で禊をする人々を照らす。夏の終わりを名残惜しく思いながらも、禊を見てまだ夏ののだなと思い返す主人公が描き出されて(以下略)
塚原	なにはえの	最近よく自陣に出てくるし、取れる(気がする)。もしかしたらこの歌に好かれているのかもしれない。ならば私もこの札を愛そうというわけだ。
熊本	あきかぜに	下の句の「もれいづる月の影のさやけさ」という語感がとてもよく感じたうえ、自陣左上段が定位置なのだが相手陣にある時より取れやすい数少ない札だったから。
木村	わがいほは	かるたを始める前から覚えていた札。「憂し山」と「宇治山」がかけられていて面白い。かるたの試合中で1番狙っている札

